



行橋、豊津の姉妹兄弟の皆さん、新年あけましておめでとうございます。
今年も、皆さん一人ひとり、そして皆さんのご家族の上に神の祝福が豊かに注がれることを心からお祈りいたします。

・元旦に合わせて「司祭のてがみ」の101号を皆さんにお届け致します。

・皆さんもご存知のように今年の11月20日まで全世界のカトリック信者と心を合わせて、私たちも教皇フランシスコの呼びかけに「いつくしみの特別聖年」を過ごすことになりました。

「『特別聖年』とは何でしょうか」と。先日このように尋ねられましたので、そのことについて少し説明をし、この説明を新年の挨拶にかえさせていただきたいと思えます。



* 聖年



- 「聖年」はイスラエルの民の信仰の歴史に遡ります。「聖年」は聖書の中での「ヨベルの年」に起源を持っています。「ヨベルの年」とは、モーセの律法（レビ記25章）によって7年毎の「安息の年」の慣行を拡大して、50年目（ $7 \times 7 = 49$ ）により、荘厳に祝う年のことです。「ヨベル」とは雄牛の角で作ったラッパのことで、これを吹き、「あがないの年」が始まったことを知らせました。（レビ記25章8～10）「あがないの年」とは、自由と解放の年で、
- この年には、貧しさのために売られ、他人の手に渡っていた土地が、元の所有者に返還されていました。

●貧しさのために売られ、奴隷となっていた人々は解放され、再び自由の身となっていました。

これを理想としたのは、土地とイスラエルの民の本当の所有者は神であり、全ての人々は平等であることを悟らせることでした。



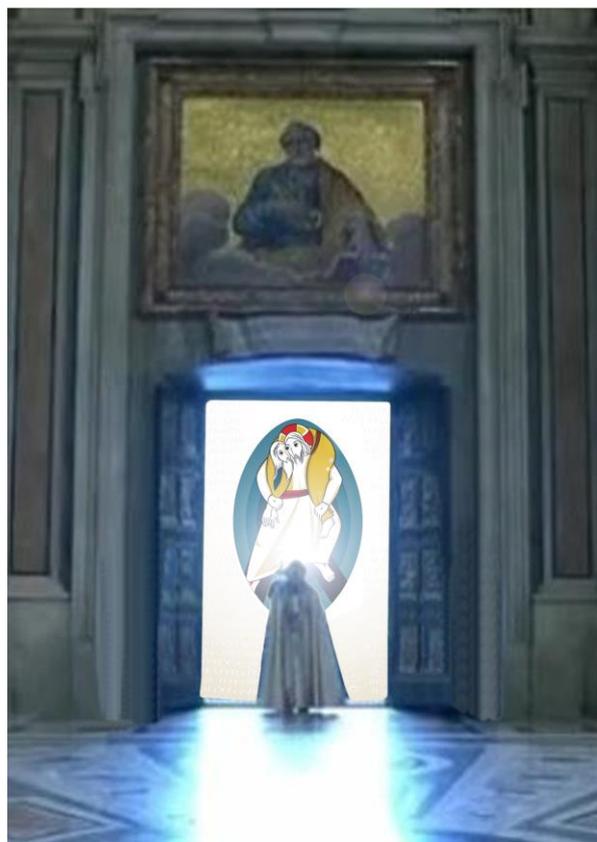
●教会の聖年

教会はユダヤ教の慣習を受け継ぎ、1300年に大聖年が制定されました。100年毎に行われるように定められましたが、1475年から25年ごとに催されるようになりました。そのほかに—今年のように—教皇の呼びかけによって特別聖年も行われるようになりました。

このような特別聖年が定められるのは、「時」を聖化し、主イエス・キリストが人類の歴史、人の「時」の中に入って来られ、聖なる息吹き(聖霊)がその中で働き、御父の愛はその中で注がれることをもっと認識するためです。

・今年の特^ち別^な聖^ち年^なを定めるに当たって教皇フランシスコは次のことを書いています。
「私たちの眼差しをもっと真^ま剣^なに『いつくしみ』へと向けるよう招かれる時もあります。私たちが御父の振る舞いを示す効果的

なするしとなるためです。これこそ私がこの『いつくしみの特別聖年』を公布した理由です。その特別聖年は信者の証しがより力強く、より効果的になるために教会にとって相応しい時となるでしょう」と。「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」P6(3)



●因みに「いつくしみの特別聖年」に当たって教皇フランシスコが公布された大勅書「イエス・キリスト、父のいつくしみのみ顔」を是非読んでくださるようにお勧め致します。なお、「聖書が語る神のいつくしみ」というテーマのもとで、北九州地区の聖書講座が5回に渡って催されますので都合のつく方は是非それに参加することもお勧め致します。では皆さん、父なる神のいつくしみのうちに良いお年をお過ごしください。